

館まつかわ

報

第593号

研究集会第50回記念 **モザイクアート**

公民館活動に関わる写真約2,000種類、6,000枚を使って中央公民館の外観をデザインしました。

実物は中央公民館ロビーにて展示中。ぜひご覧下さい!!



第50回松川町公民館研究集会

いまあした 「公民館活動の現在が地域の未来をつくる」

平成25年2月24日(日)

モザイクアート

昭和38年に始まった研究集
会も今年でちょうど50回目。半
世紀という大きな節目を迎え
る記念事業として、本館三部
部員と中央公民館職員らでモ
ザイクアートを製作すること
となりました。

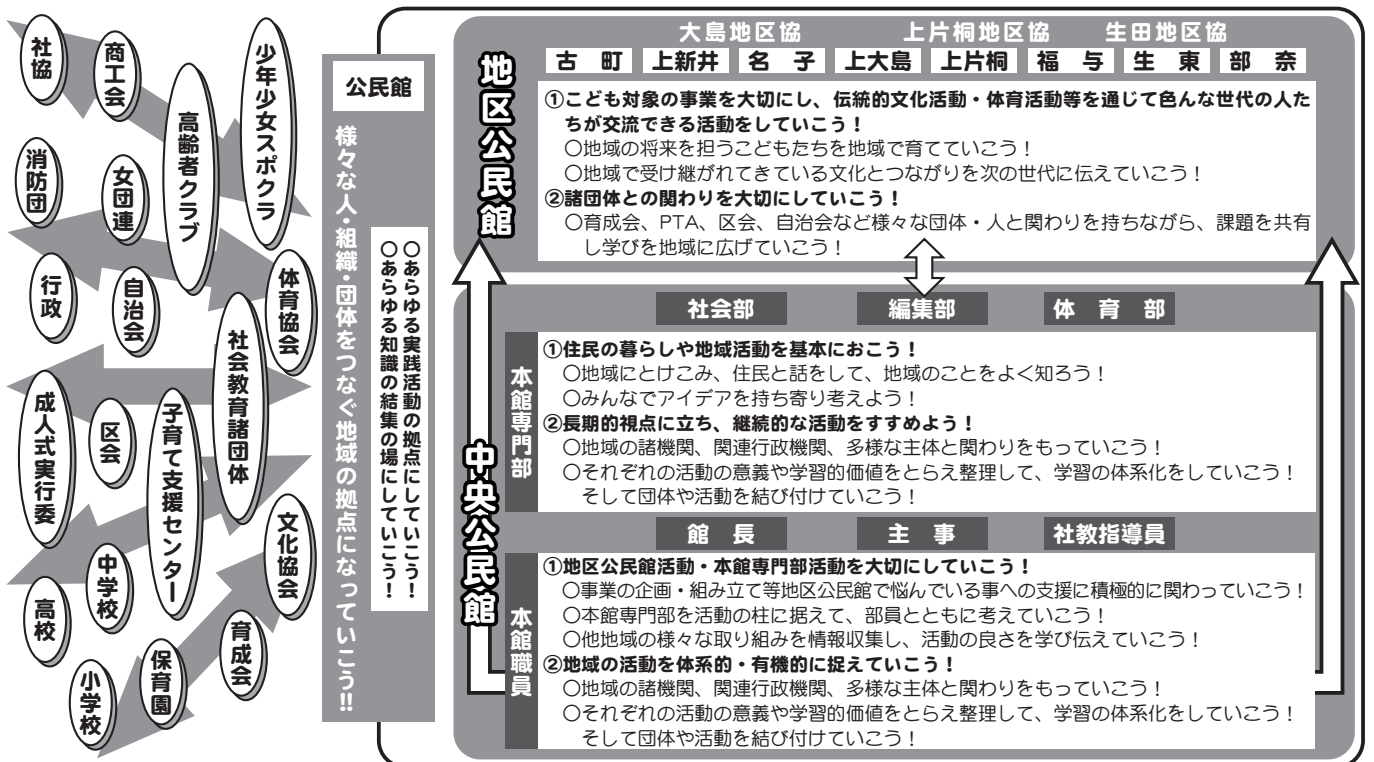
今までの様々な公民館活動
や館報の取材で撮影された約
2000種類、6000枚の
写真をつなぎ合わせ、中央公
民館の外観をデザインしまし
た。

これは公民館が住民ひとり
ひとりの活動の積み重ねで出
来ているという事、公民館改
築が決まった今、これまでの
活動や建物を記録として残し
ておきたい、という想いが込
められています。

近くに寄って見ると真剣に
話し合いをしているところや
イベントなどで見る子ども達
の楽しいげな様子の写真が一見
ランダムに並んでいるようにで
すが、数歩下がって全体を見
ると・・・あら不思議!!と
いった感じでしょうか。今回、
表紙にも掲載されていますが、
実物を中央公民館ロビーで展
示していますので、ぜひご覧
ください。

公民館活動で 地域に燈火をともしよう (提言) —これからの松川町公民館のあり方について—

昭和21年、戦後の荒れ果てた国土を再建する展望を持って公民館構想(寺中構想)が発意され、全国各地で公民館が設立されました。しかし、60数年の年月とともに社会も大きく変化し、その役割やあり方も少しずつ変わってきているように思います。そこで、松川町公民館研究集会が第50回という大きな節目を迎えた今、公民館の理念に血を通わせ肉をつけてきた先人の価値ある活動や知恵に学びながら、もう一度公民館の意義や特徴、これからのあり方について考えてみよう、と、過去2回の集会で話し合われてきた内容をもとに提言という形で整理をしたものを今回の集会で発表しました。



第1分科会
「防災・地域コミュニティ」
寄り合いから村を
復興させていく

第1分科会では、栄村公民館主事の島崎佳美さんをお迎えして震災と復興についてのお話を聞いた後議論に入りました。



〔第1分科会〕防災の視点から地域コミュニティを考えた

「まちづくり」に多くの人が係わることが必要」「地区公民館単独では行事などに人数が集まらなかつたりするので、様々な組織との連携が必要」「歴史や自然など地域を知ることも大切」「区会や自治会に加入しない人が増えている」「町としては地震などの安否確認はとなり組で行えば素早く行えると考えていて、そのために地域のコミュニケーションが大事」「消防団に入

らない人が増えている、プライベートでも関わるなど地域でも話してほしい」などの意見が出されました。

第2分科会
「自然・環境」
里山を守ろう
〜学習から実践へ〜

第2分科会の発表者には上田市川西公民館の綿内美鈴館長をお迎えし川西公民館の活動をお話いただきました。

第1部は「今の松川の自然環境はどうなっているか、それをどう思うか（何ができるだろうか）」として綿内館長から川西公民館の事例発表を。町内から部奈里山協議会の林さん、伊那自然友の会の木下さんより身近な自然が荒れて憂うべき状況にある事など具体的なお話がありました。

第2部は「松川の自然環境を良くするための学習の地域活動化と継続的な活動の充実」として、綿内館長より具体的な活動の実践事例を。第1部の林さん木下さんに続き松川自治会のホタルの会より、自然環境を守るための具体的な取り組みが発表されました。希少な生物の保護、資金の問題など難しい事があります

が、各団体の横の連携を大切に自然環境の保護のための声を上げてゆく事の重要性を綿内館長からのまとめとしていただきました。

第3分科会
「子育て・家族生活」
地域みんなで
子育てしていこう

第3分科会では育児に対してひとりで悩まないために、「母親の居場所づくり」「学びあう親のつながりをつくること」を視점에話し合いました。

まず、現状を知るために松川町にある自主グループ『ノントンの会』『心あるお産の会』の皆さんから発足のきっかけや自身の悩んだ体験を話していただきました。

その後発表者として貝塚市中央公民館の中川知子さんがワークショップ形式でも行われた



〔第3分科会〕ワークショップ形式でも行われた

ら貝塚市での様々な取り組みを発表していただきました。それぞれの話を聞く中で今日から早速できることはなんだろうということで、4つのグループに分かれそれぞれが「わたしにできること」を付箋に書き模造紙に貼りながら発表してもらい、参加した全員が宣言をし、地域のみんで取り組む子育ての一步を踏み出すことができました。

第4分科会
「体育・健康」
町民ひとりスポーツ
〜生涯スポーツでいきいきとした生活を〜

第4分科会の「体育・健康」では、町民ひとりスポーツをテーマに、運動習慣を身につけてもらうにはどうすればよいか意見を出し合いました。

講師に、豊丘村のとよおか総合型地域スポーツクラブの酒井浩文さんを招き、酒井さんの取り組みの事例などを聞きながら、運動習慣が身につけていない人へのアプローチを考えました。

ただ運動を勧めるのではなく、サロンなどでお茶や会話を楽しむ中に運動を取り入れたり、「健康のため」ダイエツ

トのため」など何のために運動するのか、その動機付けをするなど、まさに公民館的な提案もありました。

第5分科会
「若者・世代間交流」
若者が地域活動に
関わっていく

第5分科会では、高校生など若い方が多く集まり、気楽に本音で話し合える分科会になりました。

発表者として松本大学の白戸洋教授ゼミ生を招き、彼らの取り組みを事例に、若者が地域活動に関わるとどんな良さがあるか、どのようにした



〔第5分科会〕学生と参加者の対話形式で行われた

ら若者が地域活動に関わっていくことができるかなど意見を出し合いました。松川町では地区公民館や本館専門部で活動しているメン

バーの年齢がとても若く、若者が地域で活躍できる場をつくるためには、公民館が核となっていくことが重要だということを確認しながら「社会福祉協議会と公民館が協力してお年寄りと若者との世代間交流をすすめていきたい」、「松川高校生と本館社会部がより一層つながりを深めていくことが大切」など、具体的な意見も出て課題から実践へとつながっていくような話し合いの場となりました。

カフェ気分
自由交流会

分科会の後トレーニングルームに集まり自由交流会が開かれました。いろいろな人と交流が持てるようクジを引いてテーブルを決め、コーヒーやお茶、お菓子などを食べながら自由に会話を楽しみました。また何人かの方に分科会や研究会集会についての感想を全体へ話してもらいました。

またこの交流会を盛り上げてくれたのが会場に飾られた様々な作品でした。ステージには松川高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスの作品「夢」、会場を囲むようにして展示された松川写真教



オープンガーデン



松川高校書道部の皆さんの書「夢」

室の皆さんの松川の春夏秋冬の写真、オープンガーデンの会の皆さんが庭のように飾ってくれた花など、会場を華やかにしてくれました。作品についても話題に上がり会話ははずんでいました。

自由に気楽に、初めて話をする方でも笑顔で話し、なごやかな雰囲気楽しく交流が持てたようです。

平成24年度公民館功労者表彰
長年の功労を称え15人の方が表彰されました



宮澤 武彦さん



矢澤 恵樹さん



小木曾 剛さん



三島 崇さん



大島 純一さん



柏原 正和さん



佐々木 保さん



平野 竜也さん



松下 啓介さん



松崎 信宏さん



下沢 広司さん



北沢 秀公さん



竹村 隆さん



遠藤 建二さん



松沢 博文さん

おともだちへの出会い

北小1年 いたくらゆうな

わたしは、ほいくえんのねんちようさんのときに、まつ川町に、ひっこしてきました。そのときはまだみんなとはなにかよくなっていなかったけど、すこし日がたったら、たかさんの人とよくなりました。でもそのときは、まだぜんいんの人は、なかなよくなっていまいませんでした。小学校に入り、プールがはじまったら、まえはなかなよくなかったともだちともすこくなよくなよくなって、それからなかなよくないおともだちはいなくなりました。

せつぶん

北小1年 たかいゆめ

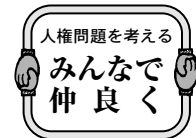
学校でともだちとせつぶんのまめまきをしました。わたしは、オレンジのかわいいおにおのおめんをつくりました。おともだちのおめんは、おこつてるおにや、わらつてるおにがあつて、とてもおもしろいとおもいました。

となりのクラスにもまめをまいたりしました。それからまめをひろったとき、わたしは、そんなにひろえなかつた

ので、たかさんもっているおともだちがわけてくれてうれしかったです。

子どもきょうじつであそんだ

北小1年 竹しまあかり



子どもきょうじつがありました。さいしよに、まひろちゃんとブランコをしました。まひろちゃんのほうがたかくあがつていました。わたしは、まひろちゃんをすごいとおもいました。まひろちゃんは、わたしが「あそぼ。」っていったら「あそぼうよ。」っていつてくれるからわたしは、大すきです。また、まひろちゃんとあそびたいです。

やさしいともだち

北小1年 たけむらまお

3がつきのさいしよのとき、きゆうしよくのおかわりのおにぎりが、あと1こだった。そのとき、わたしがとろうとしたら、ひゆうがくんもいっしよにとろうとした。そうしたら、ひゆうがくんが、わたしに「いいよ。」といってゆづつてくれた。わたしは、ひゆうがくんに「ありがとう。」っていった。わたしは、あのとすきうれしかった。

生涯教育のメッカ

松川青年の家だより

その十八

おもちゃを作って遊ぼう —竹や木を使って—

松川町には周りの市町村と同じように木や竹がいっぱい生えています。昔の子どもたちはこれらを使ってよく遊んだのですが、今の子どもたち（若い大人の方も）はどうでしょうか？ゲーム機で遊ぶことは得意でも、木や竹でおもちゃを作って遊ぶという経験はほとんどないのではないのでしょうか。そこで、松川青年の家では、身近にある木の枝や竹材を使って、おもちゃを作って遊ぼうという講座を3月3日の日曜日に開催しました。当日は5名のお父さんやお母さんと12名の保育園と小学校のお友達が参加してくれました。

竹とんぼ

まず、なたで竹を3cm幅に割り、それをナイフで削って薄くするのですが、これがなかなか大変で時間がかかりました。とくに鉛筆を削ったこともない子どもたちにとって

は血豆ができるほど大変だったようです。ある程度薄くなつたところでそれを熱湯の中に入れ、柔らかくしてからねじって角度をつけプロペラが出来上がりました。最後に竹をナイフで細く削って作った心棒を、プロペラの穴に差し込んで完成です。出来上がる、めいめい手でこすって回しては飛ばしてみましたが、最初はなかなかうまく飛びませんでした。プロペラを薄くしたり心棒を短くしたりしていろいろうちに、だんだんと上になるようになって歓声や拍手が聞かれるようになりました。

ぱちんこ

次は男の子たちが楽しみにしていたぱちんこづくりです。最初に木の枝をのこぎりで切つて二股を作りました。それぞれの枝の先端にナイフで溝を彫り、そこに玉受けの皮をつけた太いゴムを取り付けて出来上がりです。完成



すると木の玉を自分で作つて、窓から外へ飛ばしてみました。が楽しくてたまらない様子でした。最後には外へ出て遠くまで飛ばす競争や空き缶やペットボトルを的にして打ち落とす競争をしましたが、大人も子どもも夢中になって遊びました。

こま

最後に板を好きな形に切り取り、それに木を削つた心棒を取り付け、出来上がるこまを作りました。板に書いた線にそつて糸のこで切り抜いたり、それに好きな色をつけたりと子どもたちは楽しそうに作っていました。みんなのこまが完成したところで、誰のこまが一番最後まで回っているか競争したときには、「がんばれ、がんばれ」と応援したり最後まで回っていたこまに拍手をしたりして盛り上がりしました。そんなおだやかな雰囲気の中この講座は終わりました。



まつかわ大学 第4講座

『笑う門には福来たる』 ～落語で癒そう 心のストレス～

立春を過ぎ暦の上では春ですが、まだまだ肌寒い日が続く2月23日(土)まつかわ大学第4講座が開催されました。今回は落語家柳家小団治師匠をお迎えし、会場は終始笑いが絶えない有意義なひと時となりました。



会場いっぱいの笑いが

他にも落語のパターンや、身の回りにある落語の要素や少し大人な話も盛り込み『長屋の花見』の落語を披露していただき心の底から何度も笑うことができました。笑えることは、健康な証拠というお話もありましたが、題名の通り落語で心のストレスが癒された素敵な時間となりました。

張りのある声と軽妙な語り口に加え、様々な角度から繰り広げられるお話には会場は一気にひきつけられました。小団治さんのように年に何十回何百回も人前で話をする方でも本番前には緊張し、あがるそうです。あがるということは、悪いことではなく相手のことを考え大事に思うからこそドキドキするのであって、良いことだと思いやいました。なるほどと思いました。

平成24年度 地区館対抗弓道大会

2月17日(日)第37回地区館対抗弓道大会が松川町弓士の皆さんの参加により松川弓道場において開催されました。結果は次の通りです。

団体 優勝

準優勝

- 上片桐地区 竹村 明浩
- 片桐亜希子
- 南島 健
- 上新井地区 大蔵 寿春
- 福沢 隆夫
- 岩村 和夫
- 名子地区 小沢 誠
- 笠原 武明
- 野牧 初彦

個人 優勝

準優勝

- 福沢 隆夫 (上新井)
- 野牧 初彦 (名子)
- 竹村 明浩 (上片桐)



日・中文化教養講座 受講者募集!!

—公民館自主企画講座—

中央公民館では、住民の方から要望・提案のありました日本・中国語文化教養講座を、公民館自主企画講座として次の通り開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

期 日:平成25年5月11日(土)より
(隔週 土曜日に開催)
時 間:午後3時30分～5時00分
場 所:中央公民館
講 師:川又 一郎さん(北垣外)
費 用:500円/月(資料代)

※現地研修等は別途実費を負担

申込先:松川町中央公民館
電話36-2622

こども縄跳び入門教室開催

—短縄跳びの正しい跳び方を 教わり、どんどん上手になろう!!—

期 日:平成25年 4月28日(日)
時 間:午前9時30分～11時30分
会 場:町民体育館トレーニングルーム
参加費:こども 150円/人
申込み:少年少女体操・スポーツクラブ

代表 川又一郎

(電話&FAX)36-5728

※締め切りは4月24日(水)



なまき今
あたたかい声をお届け
 朗読ボランティア「スウィートボイス」



目の不自由な方や一人暮らしのお年寄りの方へ広報や館報など希望のある物をテープに吹きこみ声をお届けしている「スウィートボイス」の皆さん。親しみのあるやわらかい声をお届けしようということから名付けられたそうで、30年近くも続いているそうです。

う気持ちになると言います。朗読の他に実際にお会いする対面ボランティアも行っており、昔の行事の話や歌をうたったりすると表情も生き生きとしてうれしそうで、逆に話をすることで勉強させてもらっていることも多いとか。この館報もこのような形でお年寄りの方などに読んでもらえるのは編集部としてもうれしいことで、これからもずっと、あたたかい心優しい声を届けていってほしいと思います。

すぼと
**東小4年生 全国児童
 才能開発コンテスト受賞**

わたあめづくりの研究に取り組んできた東小学校4年生のみなさん。その研究が第49回全国児童才能開発コンテストで学習研究社賞を受賞しました。

「お祭りで売っているよくなわたあめを作って食べたい」という思いから始めたこの研究は、わたあめを作る機械を試行錯誤しながら

ら完成させ、大きなわたあめができるようになるまでをまとめたものです。空き缶やアルコールドリンク、電動ドライバーを使って機械を完成させましたが、はじめは2〜3センチほどの大きさにしかならず、努力を重ねて顔と同じくらいの大きさのわたあめができるようになりました。

全国児童才能開発コンテス

トは、県の学生科学賞作品展示会で3位までに入賞した学校が出品できるもので、県大会では最高の県知事賞を受賞。長野県代表として全国大会に出品し、文部科学大臣賞に次ぐ賞のなかの、学習研究社賞を受賞しました。

秋の学校のイベントでは、地域の皆さんや学校の仲間にも研究でつくったわたあめをふるまっております。お祭りでのわたあめの魅力を楽しみました。

こころの詩

ぼくは木だ！
 東小2年 橋場 郁選
 ぼくは木
 何でか知らないが名前

はない

ぼくは、山にすんでいる

山には友だちがたくさんいる

ぼくは松

みんなに

からかわれる時がある

なぜかぼくだけはつばが

ちゅちゅだからだ

ケンカは強いからしない

ぼくはみんなとあそぶときに

ぞつり大臣とよばれる

みんなにはもうしわけがないな

雪をかぶったヒノキ

東小4年 加賀田 穂

うーん 重いよ

だれか雪をはらってよ

せつかく生んだ芽が

だめになっちゃうよ

うーん うーん うんしょつ

バサツ

はーやつとこれだ

あーうでがかるいな

もつ雪はごめんだ

短歌

桃澤 幹子 (諏訪形)

待ち待ちし慈雨に大地は潤いて梨の芽ほのかに膨らみ初む

山はいま木々青葉して小鳥らのバトル楽しむ早朝の探鳥会

花あかり八幡までの十七年亡夫との詠草は吾が宝なり

恋文の届きし思いす新前の孫担当の「車検案内」

着替るも一人で叶わぬ怪我なれど口紅ひき喜寿へと年改める

俳句

小木曾美和子(宮坂)

厚雲にとける山なみ雪の白

大空を舞うほうおうのごとき雲

冬至過ぎ陽のかたむくを背に感じ

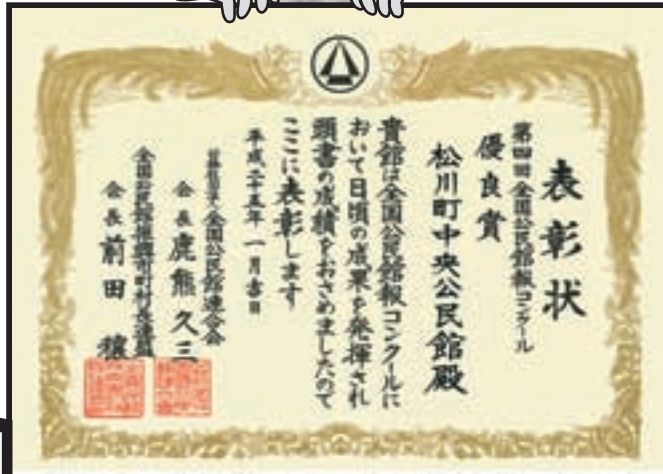
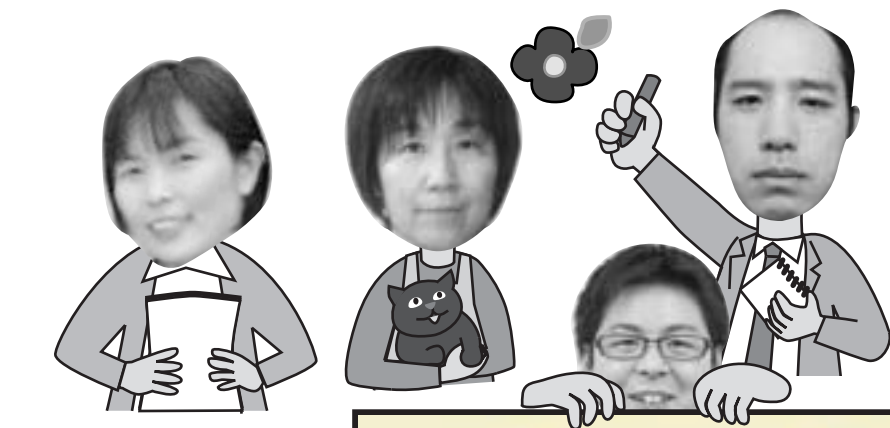
乗るごとく変わる列車の窓ながめ

雪どけを待ちつつながむ峰二つ

この度、第4回全国館報コンクールで館報『まつかわ』が優良賞を受賞することができました。

諸先輩方の築きあげられた今までの伝統に感謝することも、住民の皆さんの活動があつたこの館報なので、今回の受賞は松川町全体の受賞だと思います。

今後この良き伝統を後世に残していきたいと思っております。



祝・全国館報コンクール 優良賞



読ませる記事が多く、特集も充実していて、記事も豊富なのに、年12回も発行していただきます。表紙はとても上品。特集は、取材、聞き取りがていねいになされていることがとても評価されました。

コンクール審査員の講評



編集部ゆがいな仲間たち

◎◎◎◎◎

競馬の世界では、大レースを勝つ事よりも、名馬の血統を次の世代に伝える事の方が難しいと言われている。

昨年末のグランプリレースを制した馬の母系の血統をさかのぼると、「星旗」と呼ばれた牝馬に辿りつく。星旗は82年前に、日本で優れた子孫を作る為に輸入された繁殖牝馬の1頭、その血統が82年経って呼び起こされた。

現在の競走馬は、日本の名馬と交配可能な牝馬を海外から買って繁殖させている。このことが、日本の競馬の実力を上げている事に間違いはない。私も、このやり方にアンチな考えを唱える気は全くないが、こういう時代だから、血統を守り育ててきた日本在来の牝馬から、一流の馬が誕生するというのが、ドラマのように思えてしまう。

毎週末、日本のどこかで競馬が行われている。結果はどうであれ、無事に走り終えてほしいと思う関係者の親心は子どもを想いやる人と同じに感じる。こういったロマンも競馬の醍醐味なのではないかと思ってしまう。

松下 佳史

公民館報
「まつかわ」
第 593 号
平成25年 3月15日

発行所 松川町公民館 登部
責任者 矢澤 公民館編集部
編集人 Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)